

平成24年度
事業計画書
予算書

公益財団法人 国立京都国際会館

平成24年度 事業計画書

1. 平成23年度事業概要と収支見込み

(1) 総論

平成23年度（1月—12月）において、特筆すべき事項は以下のとおりです。

(イ) 公益財団法人への移行

まず、当法人は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律等に基づき、平成23年3月24日付けにて内閣総理大臣より公益財団法人として認定を受け、同3月25日に登記手続きを完了し、特例民法法人から公益財団法人へ移行しました。次いで、移行後最初の理事会を5月30日に、また最初の評議員会を6月17日にそれぞれ開催しました。

(ロ) 東日本大震災の影響

これに先立ち、3月11日に発生した東日本大震災に際しては、当会館においても震度3の揺れを感じましたが、地震による直接的な被害はありませんでした。他方、大震災および福島原発事故により、キャンセル若しくは延期された国際・国内の会議は10数件に及びました。と同時に関東地域で開催予定のいくつかの会議が予定を変更し当会館にて開催されるケースもありましたが、スムーズな受入れを行うことができました。

被災地への支援に関しては、当会館および職員有志並びに協力会社からの義援金に加えて、春の宝松庵茶会の売上げなど総額350万円を、京都新聞社会福祉事業団を通じて寄付しました。さらに、5月上旬、チャリティーイベント「つながれ、ニッポン」～鎮魂と祈りの夕べ～の開催に協力しました。

福島原発事故後の風評被害が大きくなり、インバウンドの観光客や国際会議の参加者が激減する中、7月開催予定の国際血栓止血学会も日本国外での開催が検討されましたが、主催者、京都府・市、観光庁等と連携を取りつつ、予定どおり京都で開催されるよう働きかけた結果、無事に当会館での開催が決まりました。

また、ILOアジア太平洋地区総会についても第三国での開催が検討されましたが、当会館の安全性をアピールすることで予定通り当会館にて開催される運びとなりました。このように個別的な努力の結果、日本及び京都の観光面における風評被害の払拭に貢献いたしました。

しかし、一方では震災の影響により、本年度の追加的な会議予約が不調に推移しているため平成23年度収支予算については修正を余儀なくされました。

(ハ) 多目的ホールの建設

多目的ホールの建設については、平成22年度の観光庁予算で「国立京都国際会館の拡充方策に係る基本調査及びPFI導入可能性調査」が三菱総研に委託され、平成23年3月にその報告書の提出がありました。その骨子は、①4,000㎡程度の多目的ホールが最適、②PFI方式の導入、③運営事業者の選択方式は検討の要あり、④経済波及効果は大というものでした。この報告書を受けて、観光庁より事業スキームに関し当会館に説明が行われましたが、ニューホールの建設を機に国際会館全体の管理運営主体を入札で決定するとの観光庁の方針と当会館の立場との間に大きな溝があることが判

明しました。その後、観光庁は、設計・施工部門と管理・運営部門をPFI事業に一本化する場合どのような態様があり得るかについて検討するため、平成24年度の政府概算要求に「国立京都国際会館の整備・運営に係るPFI事業手法調査」の経費を盛り込みました。

(二) 自主企画、広報の充実

自主企画による催事は、地域住民との結びつきを強化する上でも当会館として重要視しています。平成23年度においては恒例の春と秋の宝松庵茶会及び夏の「乾杯の夕べ」（本年は「感謝の夕べ」～ベトナムの風を感じて～として開催）に加えて、寺島実郎氏講演会、日本棋院との共催による囲碁名人戦を実施しました。また、当会館に対する理解増進と会議誘致の補助として広報誌ICC Kyoto（日本語版年4回）を初めて発行し関係方面に配布しました。（英語版は明年1月発刊予定。）また、当会館のPR用のDVD（日本語版および英語版）の内容を更新し、新たな魅力をPRできるように変更しました。（12月に納入の予定。）さらに、平成24年度には新たに中国語版の作成を予定しています。

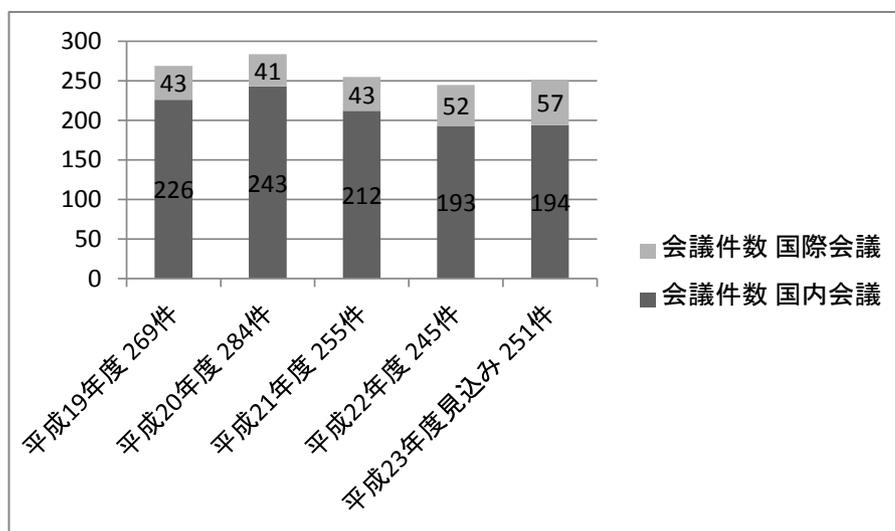
(ホ) 茶室「宝松庵」の利用増

宝松庵の利用頻度を上げることは積年の課題でしたが、使用料の大幅引き下げにより平成22年度の16件から23年度は27件に増加する見込みです。

(2) 開催された会議の概要

平成23年度の国際会議および国内会議等の開催件数は、それぞれ57件及び194件の合計251件が見込まれています。その主な会議は以下のとおりです。

参考：過去5年間の会議件数の推移



平成23年度の主な国際会議および国内会議等は以下のとおりです。

(イ) 主な国際会議

	会 議 名	開 催 期 間	参加人数
1	公益社団法人日本青年会議所2011年度京都会議	1. 20～1. 23	12, 462
2	第34回日本眼科手術学会総会	1. 28～1. 30	3, 650
3	地球環境の殿堂表彰式・京都環境文化学術フォーラム	2. 12～2. 13	1, 000
4	第7回日本消化管学会総会学術集会	2. 18～2. 19	2, 000
5	環太平洋法曹協会2011年第21回年次 京都/大阪大会	4. 21～4. 24	1, 000
6	2011 国際分析科学会議	5. 22～5. 26	1, 000
7	第11回日本抗加齢医学会総会	5. 27～5. 29	3, 700
8	2011年国際電気通信会議	6. 5～6. 9	1, 200
9	第16回RNA Society 国際会議・第13回日本RNA学会年会共催	6. 14～6. 18	1, 026
10	第10回国際家族看護学会・日本家族看護学会第18回学術集会	6. 25～6. 27	2, 565
11	第44回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会	7. 14～7. 15	1, 000
12	第23回国際血栓止血学会	7. 23～7. 28	4, 605
13	Stroke2011(第36回日本脳卒中学会総会・第40回日本脳卒中の外科学会・第27回スパズムシンポジウム)	7. 30～8. 1	3, 600
14	第2回プロセス化学国際シンポジウム	8. 11～8. 12	1, 000
15	第84回日本生化学会大会	9. 21～9. 24	4, 000
16	第8回科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム	10. 7～10. 9	700
17	第7回日中中学長会議	10. 13	250
18	日本睡眠学会第36回定期学術集会/Worldsleep 2011	10. 15～10. 20	2, 000
19	第27回京都賞授賞式・記念講演会・記念ワークショップ	11. 10～11. 12	6, 500
20	第3回世界信頼性保証会議	11. 13～11. 16	1, 100
21	第29回世界泌尿器内視鏡外科学会、第8回東アジア泌尿器内視鏡学会、第25回日本泌尿器内視鏡学会総会	11. 29～12. 3	1, 500
22	第15回ILOアジア太平洋地域会議	12. 4～12. 7	700

(ロ) 主な国内会議等

	会 議 名	開 催 期 間	参加人数
1	第7回全国小学校英語活動実践研究大会	1. 15	1,400
2	第49回関西財界セミナー	2. 9～2. 10	250
3	寺島実郎氏講演会「世界の潮流と日本の進路」(自主企画)	2. 11	450
4	社団法人京都市観光協会創立50周年記念式典	2. 14	1,500
5	日本臨床心理士会 定例職能研修会Ⅳ	2. 26～2. 27	1,930
6	第9回高齢者・障害者権利擁護の集い	3. 11	1,112
7	京都精華大学2011年度入学式	4. 1	2,171
8	第51回春の宝松庵茶会(自主企画)	4. 3	800
9	ライオンズクラブ国際協会335-C地区第57回年次大会	4. 16	2,000
10	東日本大震災チャリティーイベント「つながれ、ニッポン！」	5. 7	500
11	国際ロータリー第2650地区2011～2012年度地区協議会	5. 14	1,200
12	第112回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会	5. 19～5. 21	5,108
13	第67回日本弱視斜視学会総会・第36回日本小児眼科学会総会合同学会	7. 1～7. 2	1,500
14	特選手織絨毯展 全国大会「洛中悠楽」	7. 1～7. 3	2,000
15	スリーサム2011京都(眼科会議)	7. 8～7. 10	2,063
16	平成23年度京都府PTA指導者中央研修会	7. 12	1,500
17	全国氏子青年協議会第49回定期大会京都大会	7. 16	1,000
18	平成23年度 子どもを共に育む 未来づくり教育フォーラムin京都	8. 8	2,500
19	efy 京都セッション2011(宗教関係サマースクール)	8. 8～8. 12	1,000
20	感謝の夕べ～ベトナムの風を感じて～(自主企画)	8. 17～8. 18	3,114
21	2011年度 全国公文進度上位者のつどいin 京都	8. 28	3,930
22	第36期囲碁名人戦第2局	9. 14～9. 15	200
23	第52回日本母性衛生学会総会・学術集会	9. 29～9. 30	1,800
24	全日本トラック協会 全国業者大会	10. 6	1,600
25	平成23年度京都府戦没者追悼式	10. 11	2,000
26	第26回国民文化祭・京都2011 開会式・オープニングフェスティバル	10. 29	4,000

27	古典の日推進フォーラム2011	11. 1	1, 800
28	医学書院主催パトリシア・ベナー博士講演会	11. 19	1, 000
29	文部科学省iPS細胞等研究ネットワーク第3回合同シンポジウム	11. 19	1, 800
30	第27回京都府消防大会	11. 20	2, 000
31	第7回認知症ケア専門士認定2次試験	11. 27	1, 000
32	第52回秋の宝松庵茶会（自主企画）	11. 27	600
33	盛和塾<西日本地区>忘年塾長例会	12. 12	1, 250
34	科学・技術フェスタ in 京都	12. 17～12. 18	5, 000

（3）平成23年度の収支見込み

平成23年度の現時点における収支見込みについては、収入の部では大震災、特に原発事故の影響による国際・国内会議のキャンセルや延期、風評や円高による外国人参加者の参加者数の減少等により大幅な減収となる見通しです。

一方、支出の部でも、人件費、委託費、会議運営費など軒並み減少したものの、収入の部の減少に比してなだらかであり、平成23年度においては、不本意ながら相当額の赤字が見込まれます。

2. 平成24年度事業計画

（1）総論

平成24年度は当会館にとって極めて重要な年になります。

第一に、現在、観光庁が概算要求しております「国立京都国際会館の整備・運営に係るPFI事業手法調査」における予算が国会で承認されると、PFI事業によるスキームの調査が始まります。当会館としては、京都市に協力しつつ、観光庁の調査に協力して参ります。その中で経験とノウハウをPFI事業に活かすためにはどのようなスキームが最適かについて協議して参りたいと思います。

第二に、平成23年度の大幅な赤字（見通し）の原因を徹底的に洗い出し、その原因を改善すべく、新たな手法による会館運営を模索し、公益法人法の枠内において収益性を追求した体制へと変革して参ります。

第三に、平成24年度は、下記（4）の通り、平成25年及び26年の大規模な耐震改修工事の前年に当たります。改修工事期間中は難しい会館運営を余儀なくされると思われませんが、その影響を如何に小さくするかを、十分に検討し、考慮して参ります。

上記に加え、福島原発事故の動向及び風評は引き続き当会館に重大な影響を及ぼし、円高による外国人参加者の減少と相まって当会館を取り巻く営業環境には依然として厳しいものがあります。上述の収支構造の変革を実行し、厳しい環境の中でも、それを乗り越えて収支を黒字基調に回復させるため、会議誘致に一層努力して参ります。

(2) 会議の概要

平成24年度の現時点における当館での国際会議の開催件数の見通しは50件、同じく国内会議等の開催件数の見通しは220件で、合計270件となっています。

平成24年度に開催が予定されています主な国際会議および国内会議等は以下のとおりです。

(イ) 主な国際会議

	会 議 名	開 催 期 間	参加人数
1	公益社団法人日本青年会議所2012年度京都会議	1. 20～1. 22	12, 000
2	地球環境の殿堂表彰式・京都環境文化学術フォーラム	2. 11～2. 12	1, 000
3	第85回日本薬理学会年会	3. 14～3. 16	2, 700
4	2012年IEEE音響音声信号処理に関する国際会議	3. 26～3. 31	1, 700
5	第85回日本整形外科学会学術総会	5. 17～5. 20	8, 000
6	第111回日本皮膚科学会総会	6. 1～6. 3	4, 289
7	国際大ダム会議第80回年次例会及び第24回大会	6. 4～6. 8	1, 200
8	第63回日本東洋医学会学術総会	6. 29～7. 1	4, 000
9	第15回国際分子植物微生物相互作用学会	7. 29～8. 2	1, 000
10	第1回国際アロマセラピー会議	8. 31～9. 2	1, 000
11	第19回国際質量分析会議	9. 15～9. 21	2, 000
12	第9回科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム	10. 7～10. 9	700
13	第74回日本血液学会学術集会	10. 19～10. 21	5, 000
14	第66回日本臨床眼科学会総会	10. 25～10. 28	6, 000
15	第28回京都賞授賞式・記念講演会・記念ワークショップ	11. 10～11. 12	3, 000
16	第11回温室効果ガス制御技術国際会議	11. 18～11. 22	1, 600
17	第9回国際糖尿病連合西太平洋地区会議第4回AASD学術会議	11. 25～11. 27	2, 000
18	第19回ディスプレイ国際ワークショップ/アジアディスプレイ2012	12. 4～12. 7	1, 300

(ロ) 主な国内会議等

	会 議 名	開 催 期 間	参加人数
1	第15回日本病態栄養学会年次学術集会	1. 14～1. 15	3, 600
2	全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会 第19回研究大会 in 京都	2. 4～2. 5	3, 000
3	介護報酬改定説明会	3. 23～3. 24	2, 400
4	国際ロータリー第2650地区2011～2012年度地区大会	3. 31～4. 1	2, 000
5	京都精華大学2012年度入学式	4. 2	2, 300
6	国際ソロプチミストアメリカ日本中央リジョン第26回リジョン大会 及び2011年度分科会	4. 24	2, 498
7	アートフェア2012	4. 27～4. 29	5, 000
8	第53回（平成24年春）宝松庵茶会（自主企画）	4. 3	600
9	平成24年度社団法人京都府看護協会通常総会	6. 23	1, 000
10	第48回日本小児循環器学会総会・学術集会	7. 4～7. 6	2, 500
11	日本看護診断学会第18回学術集会	7. 15～7. 16	2, 500
12	乾杯の夕べ（自主企画）	7. 27～7. 29	1, 700
13	第60回日本PTA全国研究大会京都大会	8. 25	8, 000
14	2012年度 全国公文進度上位者のつどいin 京都	8. 26	3, 500
15	第40回日本磁気共鳴医学会大会	9. 6～9. 8	2, 000
16	第17回日本糖尿病教育・看護学会学術集会	9. 29～9. 30	2, 500
17	第43回日本看護学会 -看護管理-	10. 2～10. 3	2, 300
18	第65回済生会学会・平成24年度済生会総会	10. 13～10. 14	2, 000
19	第14回商工会女性部全国大会 in きょうと	10. 16	4, 000
20	第36回日本死の臨床研究会年次大会	11. 3～11. 4	3, 000
21	第40回日本救急医学会総会・学術集会	11. 12～11. 15	3, 500
22	第50回近畿公立学校教頭会研修大会	11. 16	2, 000
23	第49回日本糖尿病学会近畿地方会第48回日本糖尿病協会近畿地方 会	11. 17	1, 800
24	第54回（平成24年秋）宝松庵茶会（自主企画）	11. 23	600
25	第10回日本臨床医療福祉学会	11. 23～11. 24	1, 500
26	第59回日本臨床検査医学会学術集会	11. 29～12. 02	2, 000

(3) 平成24年度収支見込み

平成24年度収入の部では、前年度に比べ会議の予約状況が上回っており多少の増収が見込まれますが、24年後半には耐震改修工事の一環として外壁工事が行われるので、追加的な会議予約が伸び悩むことが若干危惧されます。企業関係の催事にも誘致の手を広げ収益事業の割合を引き上げるよう努めます。

一方、支出の部では、経費節減に極力努めます。人件費については、退職による欠員補充を行わないことなどで圧縮し、委託費については、委託契約の内容を見直すなどして経費の削減を行います。運営費については、映像、照明、音響など会議運営の必要諸費に加え大型テント設置費用が含まれますが、平成23年度決算予想額を下回るよう努力します。管理費については、当会館の維持管理に要する基本的なもの、優先順位の高いものに限定して行い、費用の削減に努めます。

(4) 施設の整備・拡充及び今後の取り組み

(イ) 耐震改修工事

平成23年度予算で国際会館の耐震改修工事費48億円が承認されたのを受けて、平成24年度後半に会館外壁の補強工事、25年度にルームAの屋根裏の耐震工事、26年度にメインホール全体の耐震工事が実施されます。これらの工事を以って、8年に及ぶ耐震改修工事がすべて終了することになり、より安心して利用して頂ける施設になるものと思われれます。

一方で、工事期間中は、利用者に対して多大のご不便をお掛けすることになり、会館の運営全般においても、多大な影響を及ぼすものと思われれます。

(ロ) 多目的ホールの建設

PFI事業手法の調査においては、京都にふさわしい国際レベルの質を保持した建物となるか、事業スキームの中で設計・施工部分と管理・運営部分の関係はどうなるのか、財団の経験やノウハウが継承されるスキームであるか、財団及び職員はスキームの中で存続しうるのか、その他にも見極めるべき事項は多くあります。京都市と連携を密にしつつ、当会館の意思や経験が観光庁の調査に反映されるよう努力いたします。

(ハ) 組織改革及び職員教育・人材育成

財団が設立されて45年、世界が大きく変わる中で財団及び職員に求められるものも大きく変化しており、それに対応することが必要となります。財団設立当初から追及して参りました公益性を重視するとともに、稼働率の向上と収益構造の改善の為に組織及び職員意識の改革に努めて参ります。また、会議運営のプロとして国際的に通用する人材の育成を緊急の課題として取り組みます。

平成24年度は、これらの改革及び課題の改善に精力的に取り組んで参ります。

平成24年度 予算書

1. 平成24年度 予定貸借対照表

平成24年12月31日現在

(単位：千円)

科目	当期
I. 資産の部	
1. 流動資産	
現金	7,527
預金	346,722
未収金	225,702
販売物品	135
前払費用	647
仮払消費税	57,282
流動資産合計	638,015
2. 固定資産	
基本財産	
指定正味財産	375,950
一般正味財産	224,050
計	600,000
特定資産	
退職給付資金	237,300
特別修繕資金	14,886
資産取得資金	600,000
損失補填資金	30,000
計	882,186
有形固定資産（通常運用）	
建物附属設備	457,740
車両運搬具	4,822
工具器具備品	382,570
立木	1,000
茶室建物	74,243
茶室附属設備	4,400
茶室備品	3,018
(計)	927,793
減価償却累計額	△ 591,384
計	336,409
有形固定資産（第一次運用）	
工具器具備品	55,725
減価償却累計額	△ 49,700
計	6,025
有形固定資産（第二次運用）	
工具器具備品	20,966
減価償却累計額	△ 20,964
計	2
有形固定資産（第三次運用）	
工具器具備品	53,752
減価償却累計額	△ 53,750
計	2
有形固定資産（第四次運用）	
工具器具備品	112,437
減価償却累計額	△ 111,648
計	789
有形固定資産（随時運用）	
工具器具備品	507,197
減価償却累計額	△ 419,013
計	88,184
無形固定資産	
会議ソフトウェア	11,600
通信加入権	737
(計)	12,337
減価償却累計額	△ 11,600
計	737
固定資産合計	1,914,334
資産合計	2,552,349

平成24年12月31日現在

(単位：千円)

科目	当期
Ⅱ. 負債の部	
1. 流動負債	
未払費用	112,460
前受金	77,826
一時預り金	39,073
職員預り金	10,932
仮受消費税	56,725
保証預り金	60,600
未払法人税等	1,268
流動負債合計	358,884
2. 固定負債	
退職給付引当金	237,300
特別修繕引当金	14,886
資産取得引当金	600,000
損失補填引当金	30,000
固定負債合計	882,186
負債合計	1,241,070
Ⅲ. 正味財産の部	
1. 指定正味財産	
基本財産	375,950
指定正味財産合計	375,950
2. 一般正味財産	
基本財産	224,050
運用財産	527,378
剰余金	183,901
(うち当期剰余金)	0
一般正味財産合計	935,329
正味財産合計	1,311,279
負債及び正味財産合計	2,552,349

2. 平成24年度 予定正味財産増減計算書内訳表

(単位：千円)

平成24年1月1日から平成24年12月31日まで

科目	公益事業			収益事業			法人会計	内部取引 消去	合計
	公益1	公益2	共通	小計	収益1	収益2			
I 一般正味財産増減の部									
1. 経常増減の部									
(1) 経常収益									
① 使用料	1,235,189	0	0	1,235,189	114,811	43,500	45,000	0	203,311
会場使用料	1,235,189			1,235,189	114,811				114,811
飲食施設使用料				0		40,500	45,000		40,500
駐車場使用料				0			45,000		45,000
売店使用料				0		3,000			3,000
② 地下鉄連絡通路料				0			7,400		7,400
③ 自主企画事業料		5,000		5,000					0
④ 基本財産等運用益	11,900			11,900					0
⑤ その他収入	0			0		600			600
経常収益計	1,247,089	5,000	0	1,252,089	114,811	44,100	52,400	0	211,311
(2) 経常費用									
① 事業費	1,288,546	18,019	0	1,306,565	102,972	6,667	33,217	0	142,856
人件費	331,582	3,730		335,312	26,498	3,730	3,730		33,958
委託費	212,387	1,140		213,527	16,973	580	20,580		38,133
運営費	598,007	6,577		604,584	47,789	1,350	400		49,539
維持管理費	146,569	1,572		148,141	11,713	1,007	7,500		13,727
地下鉄連絡通路維持費				0					7,500
自主企画事業費	0	5,000	0	5,000	0	0	0		0
② 管理費									
人件費				0					0
法人運営費				0					13,979
維持管理費				0					3,730
経常費用計	1,288,546	18,019	0	1,306,565	102,972	6,667	33,217	0	142,856
当期経常増減額	△ 41,457	△ 13,019	0	△ 54,476	11,839	37,433	19,183	0	68,455
2. 経常外収益									
① 資産取得引当金取崩益	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用									
③ 資産取得費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 41,457	△ 13,019	0	△ 54,476	11,839	37,433	19,183	0	68,455
当期一般正味財産増減額	△ 41,457	△ 13,019	0	△ 54,476	11,839	37,433	19,183	0	68,455
一般正味財産期首残高									
一般正味財産期末残高	△ 41,457	△ 13,019	0	△ 54,476	11,839	37,433	19,183	0	68,455
II 指定正味財産増減の部									
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高									
指定正味財産期末残高									
III 正味財産期末残高	△ 41,457	△ 13,019	0	△ 54,476	11,839	37,433	19,183	0	68,455

政府等による国際会議、学術会議等に関する事業

公益目的事業に該当しない催事に関する事業

飲食・宿泊・売店等に関する事業

有料駐車場等に関する事業

3. 平成24年度収支予算書

平成24年1月1日から平成24年12月31日まで

(単位：千円)

収 入 の 部			
科 目	当年度(H24)	前年度(H23)	増 減
使用料	(1,438,500)	(1,395,300)	(43,200)
使用料収入	1,350,000	1,300,000	50,000
飲食宿泊施設使用料収入	40,500	42,900	△ 2,400
駐車場収入	45,000	49,400	△ 4,400
売店使用料収入	3,000	3,000	0
利息収入	(11,900)	(10,700)	(1,200)
基本財産利子	11,600	7,900	3,700
受取利息	300	2,800	△ 2,500
その他収入	(600)	(600)	(0)
地下鉄連絡通路収入	(7,400)	(7,600)	(△ 200)
自主企画事業収入	(5,000)	(12,000)	(△ 7,000)
合 計	1,463,400	1,426,200	37,200

平成24年1月1日から平成24年12月31日まで

(単位：千円)

支 出 の 部			
科 目	当年度(H24)	前年度(H23)	増 減
人件費	(373,000)	(393,400)	(△ 20,400)
職員給料	229,300	233,800	△ 4,500
期末手当	70,400	72,400	△ 2,000
退職金	18,900	26,400	△ 7,500
通勤手当	8,000	7,600	400
法定福利費	43,400	50,200	△ 6,800
福利厚生費	3,000	3,000	0
委託費	(254,000)	(258,100)	(△ 4,100)
会場設営費	46,000	46,800	△ 800
駐車場費	20,000	24,700	△ 4,700
館内案内費	35,000	35,300	△ 300
警備費	34,000	33,700	300
清掃費	51,000	54,600	△ 3,600
電気機械保守費	58,000	58,000	0
派遣費・報酬等	10,000	5,000	5,000
運営費	(660,700)	(580,700)	(80,000)
電力使用料	40,000	38,000	2,000
ガス使用料	62,000	62,000	0
水道使用料	5,000	5,000	0
広報宣伝費	3,000	8,000	△ 5,000
通信運搬費	8,000	8,000	0
運営用消耗品費	20,000	23,000	△ 3,000
会場運営諸費	522,700	436,700	86,000
管理費	(163,200)	(176,000)	(△ 12,800)
修繕保守費	30,000	40,000	△ 10,000
庭園保守費	30,000	30,000	0
交際接待費	2,000	4,000	△ 2,000
旅費	8,000	10,000	△ 2,000
事務印刷費	12,500	15,000	△ 2,500
保険料	2,000	2,000	0
会議行事費	2,000	2,000	0
諸会費分担金	4,000	5,500	△ 1,500
諸費	2,000	2,500	△ 500
減価償却費	70,700	65,000	5,700
地下鉄連絡通路費	(7,500)	(7,500)	(0)
自主企画事業費	(5,000)	(10,500)	(△ 5,500)
当期収支差額	(0)	(0)	(0)
合 計	1,463,400	1,426,200	37,200